

洞窟測量入門

—野外実践編—

ケイピングジャーナル編集部

基礎講座編では洞窟測量の概要を紹介し、測量の方法についても少し触れましたが、ここでは弊誌編集部の洞窟測量初心者が野外で実際に測量する様子と共に、実践的な測量の流れ、測量のコツ、注意すべき点などを紹介します。測量器具さえあればどこでも手軽に練習できるので、洞窟測量に興味がある方は、是非試してみてください。

1. 準備

《道具》

①コンパス、傾斜測定器

方位角と傾斜角の両方を測れる機能が備わっているスントタンデムが便利です。

②距離測定器

ボタンひとつで距離が測れるレーザー測距儀が扱い易くてよいでしょう。



①コンパス
Suunto TANDEM



②レーザー測距儀
BOSCH DLE 50 PROFESSIONAL

③防水スケッチブック

野外や洞窟で使用するのでスケッチブックは防水のものが望ましいです。防水だと泥などで汚れても洗えます。(もちろん書いた文字は消えません) 防水の方眼紙をバインダーに挟んでもよいでしょう。

④シャープペンシル

消しゴム付きのものが便利です。



③防水スケッチブック
"Rite in the Rain" - #361 Metric Field
④シャープペンシル
消しゴム付きシャープペンシル

測量器具はデリケートなものですので、洞内で持ち運ぶ際は、タオルなどに包みタコスポに入れましょう。

本格的な測量では、ポイントに設置するベンチマークと、打ち込み用の釘とハンマーを持っています。

よくある失敗として、洞窟でいざ測量をはじめようとしたら、レーザー測距儀の電池が切れていたとか、コン

パスが壊れていて使えなかったために、測量せずに帰ってきた、ということがあるので、洞窟に入る前に測量器具のチェックを必ずやりましょう。

《ロケーション》

千葉県某所の公園内、歩道に囲まれた小高い雑木林風の場所で、ママ友と子供達で賑わっている中、若干の視線を感じながら測量をしました。

歩道の縁石を洞壁に、木は石柱に、オブジェは生成物に見立てて、仮想の洞窟としました。



千葉県某所の公園内にある小高い丘

◎ロケハンのポイント

起伏に富み、木や砂場、水場などあるとスケッチのよい練習となります。

屋内でも建物の構造(高低差)を活かして、縦断面図のスケッチ練習が出来ます。

2. 測量

《起点を決める》

測量する範囲全体を見て、始め易い場所を選定します。

今回は測量範囲は公園内の小高い丘、東半分とし、丘の東端を起点にしました。

通常、洞口、最奥、主要な分岐点などを起点とします。

…洞窟で測量する場合のコツ、豆知識、注意点など